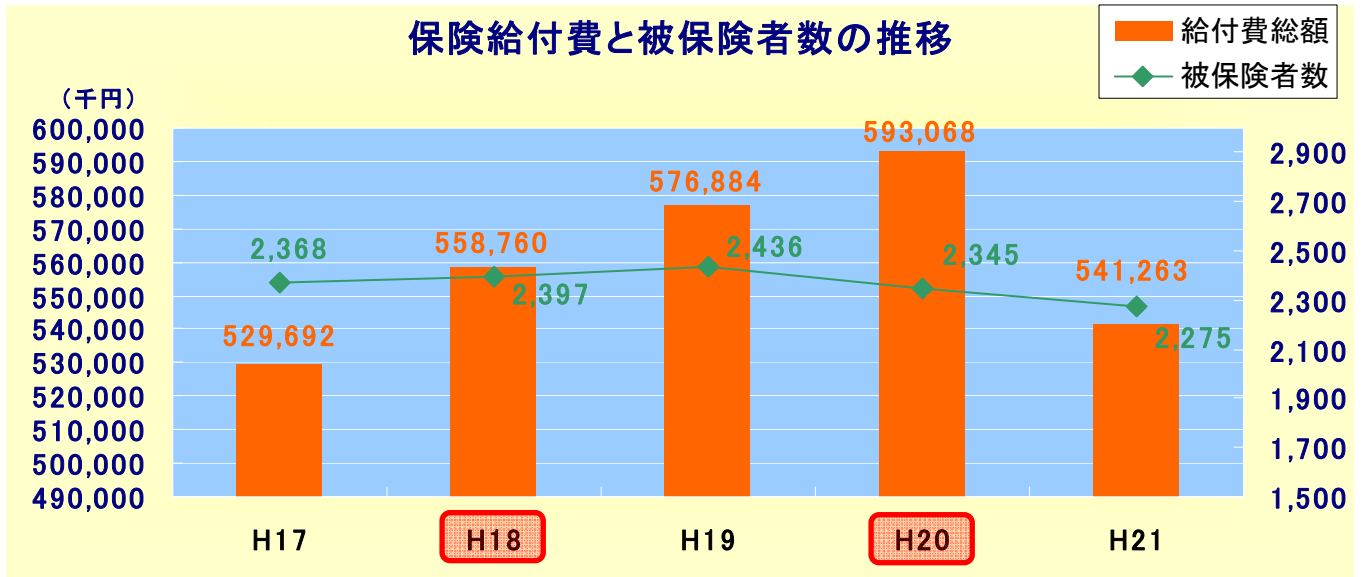


○保険給付費と被保険者数の推移

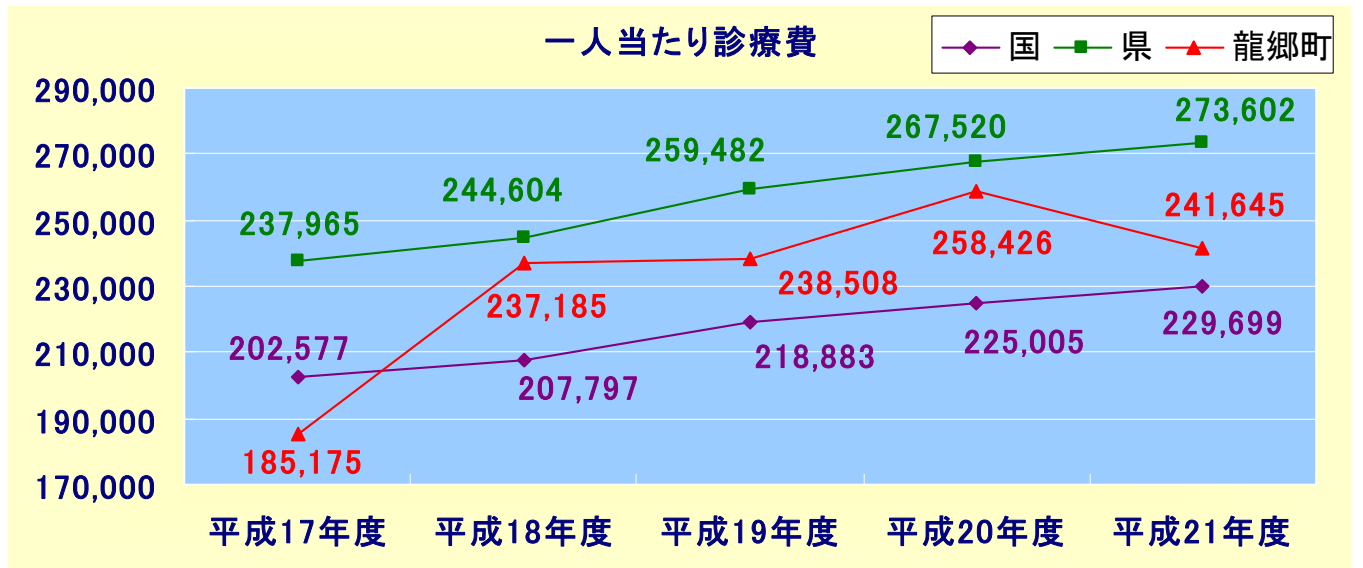


ポイント!

・被保険者数は、ほぼ横ばいなのに対し、保険給付費は平成20年度までの4年間で約6,300万円伸びている事が分ります。特に伸びの著しかった平成18年度と20年度は、全国と比べて医療費の高かった市町村として、**高医療市町村(県指定)の指定**を受けています。本町では平成20年度に初めて**国民健康保険事業運営安定化計画**を策定し、**医療費の適正化**に努めてまいりました。その成果により、平成21年度の医療費は適正に保たれたものと分析しています。

※平成21年度の医療費が著しく下がっているように見えますが、これはH18～H20の3カ年が特に高ただけであり、この3カ年を隠すとH17～H21にかけて、緩やかに増加している事が分ると思います。この増加こそが、高齢化等による自然な医療費の増加とみられています。(医療費の削減ではなく適正化)

○1人当たり診療費の推移

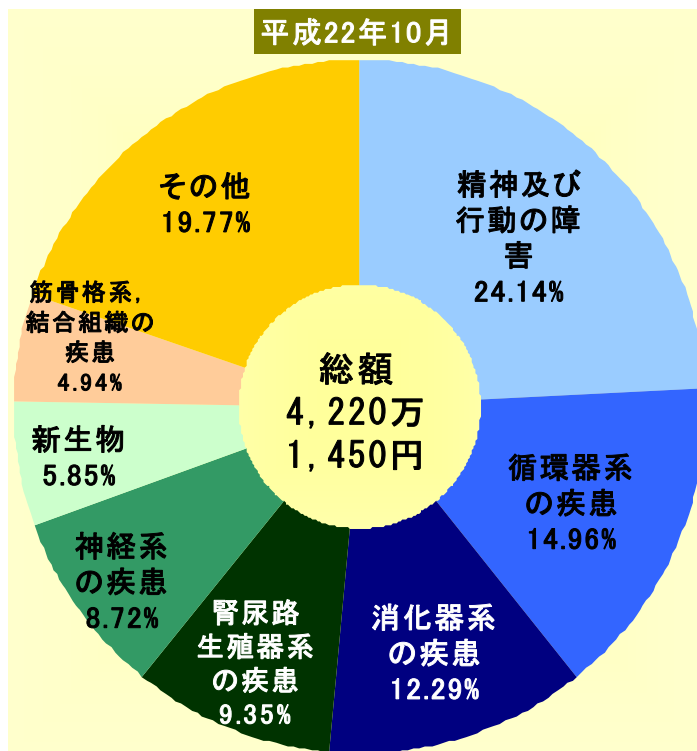
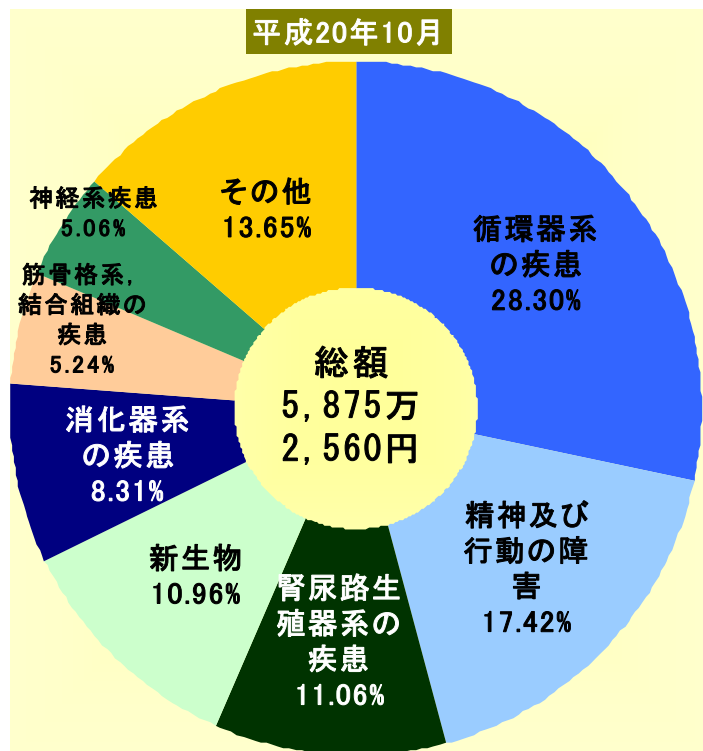


ポイント!

・平成17年度以前は、本町の一人当たり診療費は全国と比べても低い額を保っていましたが、平成18年度以降は県平均を下回るものの、**依然全国と比べて高い額**であることが分ります。

※1人当たり診療費とは、入院・入院外・歯科にかかった診療費をその年度の平均被保険者数で割ったものです。また、診療費とは医療に係る全額を指し、皆さんが病院の窓口で支払う3割負担額と、役場が支払う7割を合計したものです。この1人当たり診療費は、国民健康保険加入者の高齢化などで上下しますが、全国との比較などによく用いられます。

○疾病分類別診療費の比較

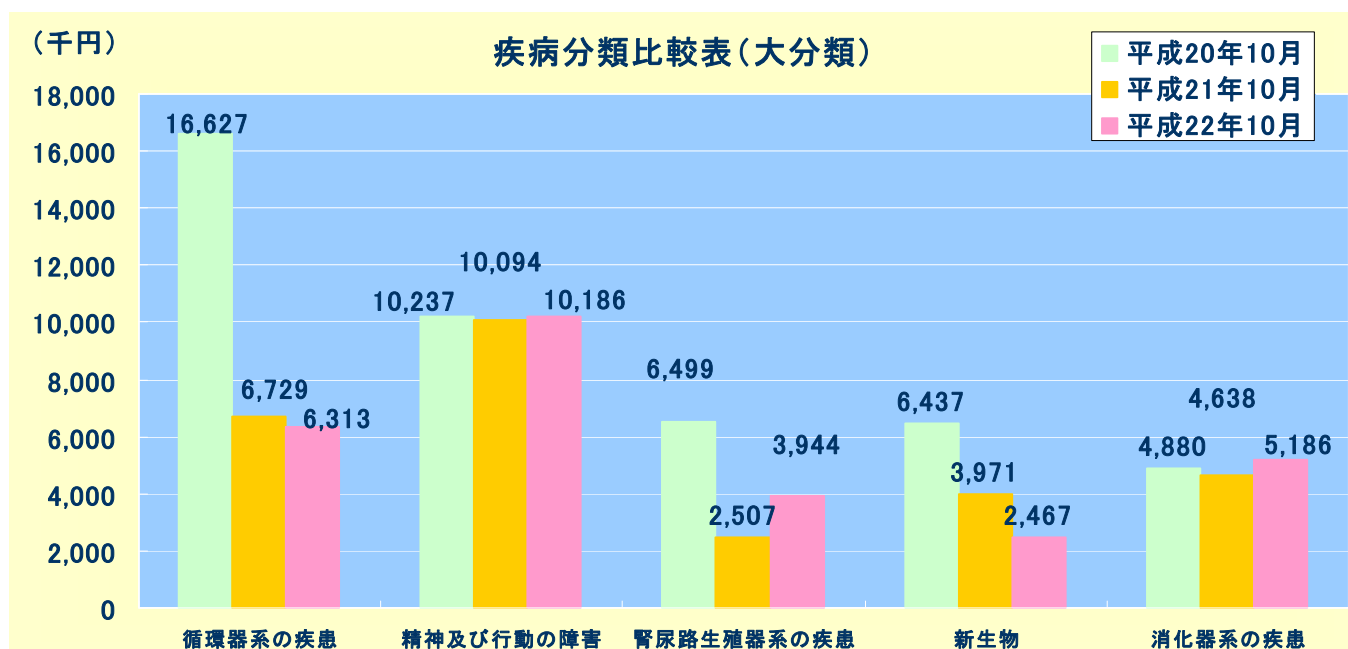


ポイント!

・医療費の高かった平成20年10月と、比較的低かった平成22年10月の診療費を比較してみましょう。本町は比較的精神及び行動の障害（特に入院）に係る診療費が高いのが特徴ですが、高医療市町村の指定を受けた平成20年には循環器系の疾患が28.30%と第1位になっています。これは平成22年10月と比較すると約2倍の割合となっています。本町の医療費が急激に伸びた要因は、この循環器系の疾患にありそうです。

※疾病分類とは、世界保健機関（WHO）より公表されている「疾病及び関連保険問題の国際統計分類」に準じて定められたものであり、社会保険の分野で疾病統計を作成する際の統一的基準として広く用いられているもので、大分類としては19の疾病に分類されています。

○疾病分類別診療費の推移

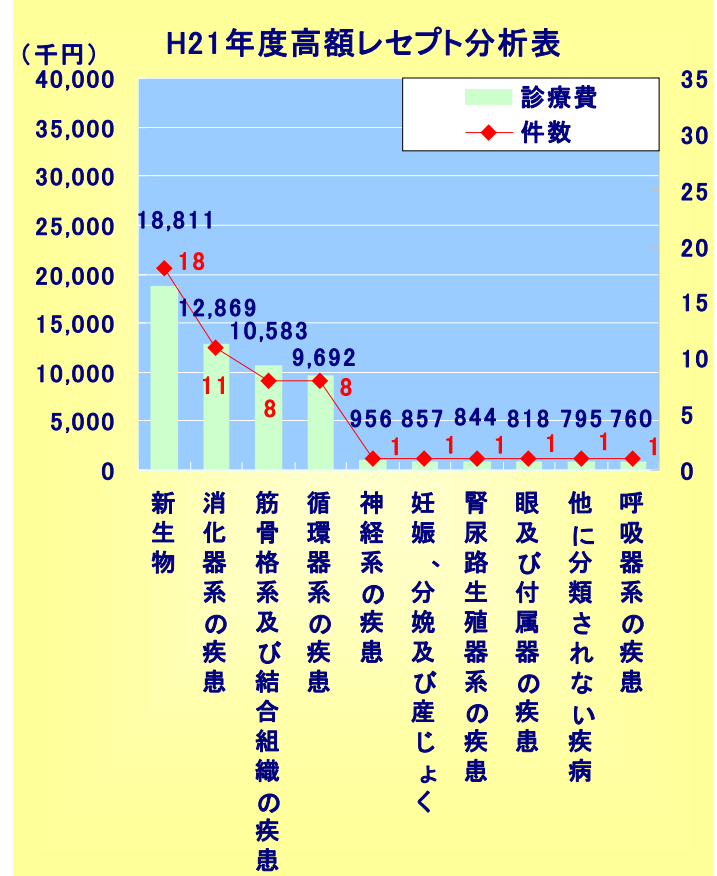
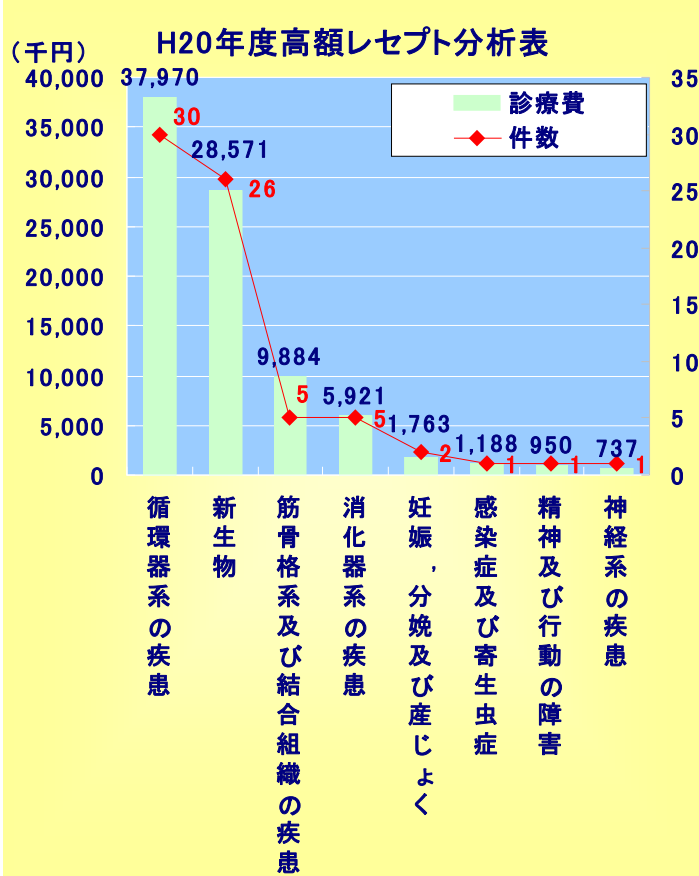


ポイント!

・医療費の高かった平成20年10月時点での、疾病分類別診療費の上位5位の3年間の推移を見てみると、循環器系の疾患が飛びぬけて高かったことが分ります。1ヶ月間の診療費が約1千万も違うのは何故か。次ページの高額レセプトの診療費及び受診件数の推移で見てみましょう。

○高額な医療費の疾患

※皆さんが受けた診療について、医療機関が保険者（市町村や健康保険組合等）に請求する医療費の明細書をレセプトと言います。本町ではこのレセプトの内、1枚で7万点（70万円）を超えるレセプトを高額レセプトとして位置づけ、全ての高額レセプトについて集計し分析しています。



疾病分類(大分類)	診療費 (円)	件数	1件当たりの診療費
循環器系の疾患	37,970,371	30	1,265,679
新生物	28,571,270	26	1,098,895
筋骨格系及び結合組織の疾患	9,884,270	5	1,976,854
消化器系の疾患	5,921,150	5	1,184,230
妊娠、分娩及び産じょく	1,762,970	2	881,485
感染症及び寄生虫症	1,188,400	1	1,188,400
精神及び行動の障害	949,600	1	949,600
神経系の疾患	737,310	1	737,310
合計	86,985,341	71	1,225,146

疾病分類(大分類)	診療費 (円)	件数	1件当たりの診療費
新生物	18,811,410	18	1,045,078
消化器系の疾患	12,868,620	11	1,169,875
筋骨格系及び結合組織の疾患	10,582,700	8	1,322,838
循環器系の疾患	9,692,390	8	1,211,549
神経系の疾患	956,420	1	956,420
妊娠、分娩及び産じょく	856,750	1	856,750
腎尿路生殖器系の疾患	844,480	1	844,480
眼及び付属器の疾患	817,970	1	817,970
他に分類されない疾病	794,660	1	794,660
呼吸器系の疾患	759,970	1	759,970
合計	56,985,370	51	1,117,360

ポイント! ・平成20年度は循環器系の疾患のみならず、新生物についても高額レセプトの多い年でした。しかし新生物は、平成21年度と比較してみるとやや多かった程度であり、循環器系の疾患の比ではありません。循環器系の疾患は件数が22件、診療費にして約2,800万円も差があります。また、1件当たりの診療費も高くなります。そしてなにより**重要なのは、新生物と違い循環器系の疾患は、予防の出来る疾患**だということです。

また、筋骨格系及び結合組織の疾患は1件当たりの診療費が非常に高額で、注意が必要な疾患です。ここには膝関節の置換え術や腰部脊柱管狭窄症手術などがあります。